



ひかりの都

リハビリテーション西播磨病院だより

発行・編集

兵庫県社会福祉事業団

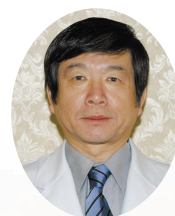
リハビリテーションセンター西播磨病院

〒679-5165

兵庫県たつの市新宮町光都1丁目7番1号

TEL (0791) 58-1050

FAX (0791) 58-1071



新年のご挨拶

リハビリテーション西播磨病院 院長 横山 和正

皆様、あけましておめでとうございます。西播磨病院も4回目の正月を迎えました。平成18年4月開設以来、地域とともに歩み成長する病院という運営理念のもと、リハビリテーションに特化し、先進的で安全な医療の提供を目指してきました。平成18年7月の診療開始後、当院を利用される患者さんの数が着実に増えている中で、医療の中身の充実はもちろんのこと、毎年患者さんへのアンケートを実施し、当院の診療環境が利用される患者とご家族にとってできる限り満足度の高いサービスを提供するべく多くの努力を積み重ねてきました。入院リハビリの充実、音楽・園芸療法の活用、通院リハビリの拡充、MRI・CT・各種生理検査機器などを駆使した専門診療、病院ボランティア募集、サロンコンサートへの患者さんの参加、当センターで実施される秋祭り「ふれあいフェスタ」、パーキンソン病や頸髄

損傷の患者さんの会との交流など、数々の工夫の足跡を挙げることでできます。当院を受診される患者・家族の皆様へのお願いですが、アンケートは年1回で、しかも限られた方からの情報ですので、常設しております。意見箱に当院への忌憚のないご意見やアイデアを寄せていただきたいと思っています。

今年も、リハビリや専門医療を通じて質の高い、かつ、満足度の高いサービスを提供し、西播磨病院の成長と発展への努力を職員とともに重ねて邁進しますので、県民の皆様のご支援とご指導をお願いいたします。



平成21年度 患者満足度アンケート調査の結果報告

病院利用者の皆さまが、当院に対してどのような評価や要望をお持ちになっているかを調査し、今後さらにきめ細やかなサービスを提供し満足していただける病院とするために、平成21年10月にアンケート調査を実施いたしました。

この度、その結果がまとまりましたので、ご報告いたします。

〔外来編〕

1 診療全般について(図-1)

何らかの問題を感じておられる方々が全体で7%みられました。

2 接遇態度について(図-2)

何らかの問題を感じた方々が全体で8%みられました。

3 病院内設備および病院情報全般について(図-3)

何らかの問題を感じておられる方々が全体で18%おられ、一方で、ゆったりとした病院のアメニティに快適性を感じておられる意見もありました。

4 診察日および診療時間の設定について(図-4)

何らかの問題点を感じておられる方が全体で20%おられ、その意見としては、時間帯によって医師や看護師が少ない、

診療日と患者さまの生活サイクルがあわないなどがありました。

〔入院編〕

1 診療全般について(図-5)

何らかの問題を感じておられる方々が全体で19%みられました。

2 接遇態度について(図-6)

何らかの問題を感じた方々が全体で11%みられました。

3 職員に対する信頼感について(図-7)

問題を感じた方々の内容をみると、診察や看護・リハビリ訓練内容の説明不足、要望に対する迅速な対応不足、チーム医療としての連携不足などの意見がありました。

4 病院内設備全般について(図-8)

全体で24%の方々が、病室・病棟の快適性において①明るさ、②清潔感、③空調、④ベッドの位置などの要望の順で何らかの問題を感じておられる結果でした。

5 病棟談話室・トイレ・売店など病院内施設の快適性について(図-9)

全体で25%の方々が、何らかの問題点を感じておられました。

かの問題点を感じておられました。問題点としてトイレの快適さと清潔感が最も多く、売店の充実に対する意見もみられました。

6 退院後の療養生活に対する支援について(図-10)

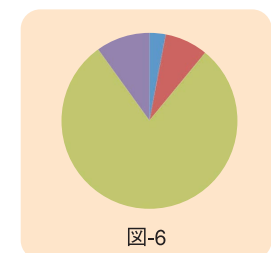
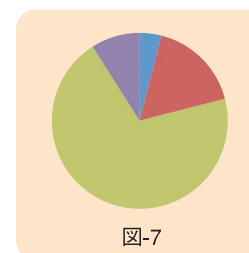
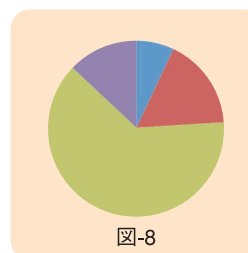
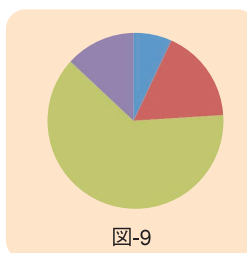
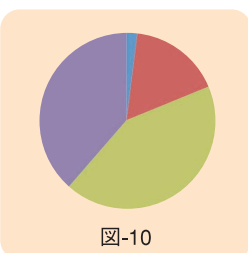
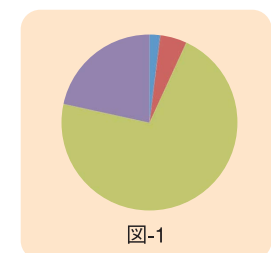
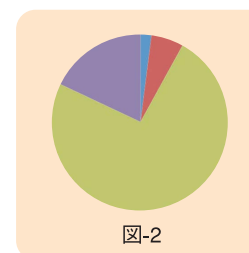
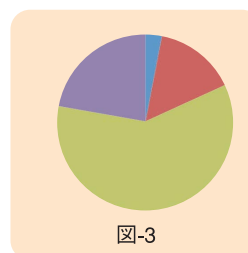
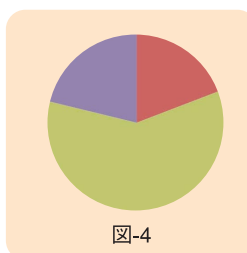
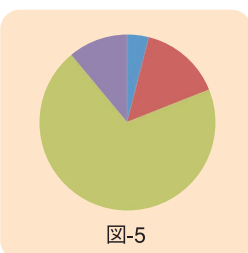
全体で18%の方々が何らかの問題を感じておられました。その最も多い内容として、退院後生活に対する支援の方法や内容に関する説明と医療・介護サービスの紹介など情報に関するものが見られました。

総評

アンケート調査の結果、①チーム医療としての診療内容に関する説明不足や連携不足、②職員の接遇、③病室空調やトイレなど院内設備、④院内アメニティなどといった点で病院利用者の皆さまからの要望に応えきれない点も多いことがわかりました。

今回の結果を病院職員一同が真摯に受け止めて、今後「患者サービス向上推進委員会」をはじめ病院全体で検討してまいります。

アンケートへのご協力ありがとうございました。



■ 問題を感じた ■ 少し問題を感じた ■ 問題は感じなかった ■ 無回答

ご存知ですか？

機能的自立度評価法

皆さんは「リハビリテーション総合実施計画書」というものを目にされたことはありませんか？これは現在の患者様の状態とリハビリテーションの目標を記載した書類であり、当院に入院している患者様であれば、主治医の先生から毎月手渡されていると思います。当院ではこの総合実施計画書の「日常生活」の欄を、FIM (Functional Independent Measure・機能的自立度評価法) という評価手法で記載しています(図)。ここには日常生活の自立度(介助を必要とせずに遂行できる能力)が数値化されています。毎月手渡される書類中

にあるこの点数、どのように評価されているかご存知ですか？点数は高い方がよいのでしょうか、それとも…？

FIMは米国で開発され、先進諸国でも広く活用されている日常生活の評価法です。“運動機能”と“認知機能”を評価する18の各項目を7点満点で記載します。全体では、 $18 \times 7 = 126$ 点満点です。そうですね。もちろん、点数が高いほど日常生活の自立度が高いことを示し、各項目で6点、7点は介助者を必要とせずに動作が行えるということことです。5点以下の場合は、程度の差はあるものの、何らかの形で介助者が必要であることを表しています。具体的には、7点Ⅱ自力で行える、6点Ⅱ安全性の配慮が必要・時間がかかる・補装具が必要、5点Ⅱ準備・指示・見守りが必要、4点Ⅱ75%以上自分で行う、3点Ⅱ50%以上自分で行う、2点Ⅱ25%以上自分で行う、1点Ⅱ25%未満しか自分で行わない、といった採点基準です。ここで、上

半身の更衣(シャツ着衣)を例にとつて考えてみましょう。6点となるのは、シャツを着るときにリーチャーなどを使用している・通常の3倍以上の時間がかかるなどの場合です。5点となるのは、頭や袖を通す場所を介助者が指導している場合です。4点は、ボタンのみ手伝ってもらう・襟を整えてもらうなどの場合です。3点は、片袖を通してもらい、服を下ろすのも少し手伝ってもらう場合です。ここまでくれば、2点は想像できますか？2点となるのは、片袖を通してもらい、かぶるのにも手伝ってもらう、ボタンも手伝ってもらう場合です。以上の例は一例であるため、すべての事例で当てはまるものではありません。あくまで参考としてとらえてください。点数をつける側も大変で、いつも例題通りのようにすすきりと点数をつけられず悩んだり、同じ患者様でも評価する職員が違えば点数も違ったり、といったことも多々あります。当院ではこのような悩みを

少なくし、職員間の評価視点を統一する目的で、5回にわたってFIMについての研修会を開催して勉強しています。

さて、このFIMの利用法ですが、ひと月おきの点数があれば脳血管障害の患者様の退院時のFIM点数を、ある程度予測する方法も考案されています。当院では予測法は利用していませんが、カンファレンスではその時点での患者様の状態を把握したり、入院効果の判定をしたりするためにFIMを用いています。

このように点数づけされると、学生時代のテストを思い出してしまいませんか？いま一度、ご自分の点数を確認してみてください。良い点数をとれていますか？数値で表されるだけあって、次は良い点をとろう、と意欲がわいてくるかもしれません。そんな時、こんな視点で評価されているのか、ということが分かれば改善に向けて努力しやすいのではないのでしょうか。

認知症患者 医療センター開設

平成21年11月1日よりリハビリテーション西播磨病院内に認知症患者医療センターを開設いたしました。

従来の高次脳診療科をベースに相談機能を充実させるとともに、リハビリ専門病院の特色を活かして、予防から診断・治療・リハビリ相談まで個々の専門スタッフによるサポートを行っていきます。お困りのことがありましたらお気軽にご相談下さい。

最近こんなこと

ありませんか？

- 同じことを何度も言ったり、聞いたりする。
- 物の名前が出てこない。
- 置き忘れやしまい忘れが目立つ。
- 時間、日付や、場所の感覚が不確かになった。
- 病院からもらった薬の管理が

できなくなりました。

- 以前はあった関心や興味が失われた。

- 水道の蛇口やガス栓の締め忘れが目立つ。

- 財布を盗まれたと言って騒ぐ。

- ささいなことで怒りっぽくなった。

ご利用案内

月～金曜(土・日・祝日を除く)

午前 9時～12時

午後 13時～17時

電話 079-1158-1050

(内線113番)

担当：山森・瀧本

(精神保健福祉士)



ノロウイルスの 予防

ノロウイルス(感染性胃腸炎)

主な症状は、嘔吐・下痢・発熱です。症状は突然現れ、トイレから離れないほどの嘔吐・下痢、それが治まると、激しい悪寒・発熱等が現れます。症状は1・2日程度でおさまります。

対策は？

ノロウイルスは口から感染します。そのための予防として**手洗い(特に調理する人)が必須**です。

外出後、トイレに行った後、調理や食事前、嘔吐、糞便の処理後は必ず手を洗って下さい。30秒以上のこすり洗いを目安にして下さい。

また、特にノロウイルスは嘔吐物や糞尿に多く含まれています。原因のわからない嘔吐物の処理は、**マスク・手袋を使用し、最後に消毒液で拭きま**しょう。

消毒は

塩素系漂白剤を薄めることで

家庭でも簡単に消毒液を作ることができます。

【汚染した床や衣類の消毒方法】

お湯や水2Lに対して漂白剤を10cc入れ、ペーパータオルを使用する。使用したペーパータオルはビニール袋に入れ廃棄する。

○感染してしまったら...

感染しても、直接命に関わることはありません。しかし、嘔吐・下痢による脱水には注意が必要なので、**スポーツドリンクや、食塩水**を人肌に温めたものを飲むよう心がけましょう。

調理器具や調理台はいつも清潔にしましょう

まな板、包丁、食器、ふきんなどは使用後すぐに洗うとともに、熱湯(85℃以上)で1分以上の加熱が有効です。また、次亜塩素酸ナトリウム(200ppm)で浸すように拭くことも有効です。

「手洗い」「うがい」をしっかりと行いましょう

特に食事前、トイレの後、調理前後は必ず手を洗いましょう。
(石けんをよく洗浄し、すすぎは温水による流水で十分に。)

加熱が必要な食品は中心部までしっかりと加熱しましょう
中心温度85℃1分以上加熱して食べましょう。

